郷の集い

新郷校
父兄会
文芸委員会　発行

新年度を迎えて

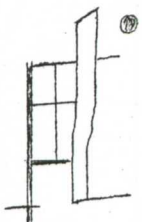
学校長　吉川　静

昨年の五月に「郷の集い」を発刊してから　満一ヶ年になりました。皆様の御手許には大同程の「郷の集い」をおおくりしましたが、如何なものでしょうか。才六回目のときには、先輩を持っておられる親御さん方から　沢山の原稿をいただき、いつもより倍の印刷になりましたことは、それだけ皆様方の御協力と御子様への関心をおよせになっている事がわかります。

私が昨年申し上げましたように、原稿を出すと言うことはなかなか簡単なようでもむつかしいので、皆様の御思いになっていることを文のつまさとか字のことはかまいませんから、平面に紙きれにでもお書き下さるよう申しましたが、私が当初予想しました時より目を重ねるにしたがってよくなったように感じます。今年もどうぞ昨年にも増して原稿を出されるように御願いします。

次に御子供様の事について申し上げますが、今年四月一年生に二十九名、幼稚園に二十二名の新入生を迎えました。子供はかけがえない大切なものです。親御さんたちはたとえ現在までに世の荒波にもまれ　苦しい生活をして自分の理想がふみにじられたとして、我が子だけは何とかして正しい　美しい生活をしてもらいたいと願っておられると思います。子供を育てる場合にはたとえ親御さんはどんな生活をなされようとも自分の子供には理想にあったよい子供の姿を心にえがきながら、一人一人の子にあった育て方をしていきたいと念願していると思います。新入生の子供さんはこの幼学校の校舎にもなれて、若葉が段々色こくなって来るように新鮮な空気を吸い　はつらつと学校の中をとびまわっています。全く子供の心は実真らんまんで白い紙のようです。この汚れを知らない子供の心をすくすくと伸ばして行きたいものです。子供さんが家に帰ってから親の思う事、言う事と先生の言う事とがくい違っている事があろうかと思いますが、そんな時には御遠慮なく学校にお出かけ下さって　受持の先生とお話し下さい。そしてこの新しい気持を　美しい心をいつまでも伸ばして行きたいものです。

教師は子供を教える時には子供のうしろに親御さんのおすがたを思いうかべるようにしたいと思います。



父兄会長より一言

会長を引受けて早や一ヶ年　無事とは大きな顔はできませんが、会員の皆様の御協力によりすごさせて頂き、本年また再選に浴し　いままで、これからを思う時　感慨新たなものがございます。

私達の「郷の集い」も復刊二年目を迎え、まずく充実さ小て参りました事、これも関係の先生や父兄会の皆様方のじ力の結果と感謝致しております。

今年度は　力強い事には校長先生をはじめ諸先生方の陣容も昨年と同じでこの先生方が今までの業績をそれ以上に発揮さ小て　また学校に父兄会にどしどし新企画を取り入れていただき、実践に移さ小ておられる事であります。私達父兄会としましては、非常に喜んでおる次第で、感謝の念で一ぱいでございます。これに続いて皆様方も御協力をいただいて、伝統ある父兄会をより一層充実したものにして頂けるものと期待させて　一年後の成果を今からたのしみにしております。

つぎましては　この「郷の集い」を十二分に活用して頂き　紙面も本年度から新しい試みも多くありますので、かっこうの私達の意見の発表の場になるのではないかと思います。

私達が思っている　かざりのないコトバをのせようではありませんか。お願い致します。父兄の皆様におかれましても「郷の集い」は　ささやかなながら刊行ではありますが、私達の校風誌として　私達の憩の場として有効に利用させていただき　どこの学校にもまけない優秀なものに育てて行こうではありませんか。どうぞよろしくお願いします。

三十四年度をむかえて

青木是忠

「郷の集い」も早や一ヶ年をすぎ去り新しい年を迎えましたことはよろこびにたえません。私も最後の年で子供と共によりよく勉強して行きたいと思っております。母親学級で長年先生にお習いしたこと　講師の御才のおはなしなど　いろいろと思いうかべ感慨無量でございます。三年前の修了式に御臨席下さいました婦人先生の御話に「母親学級かすぎ去った事を思わず、今日からが出発点だと思って学んでほしい」とおきかせ下さいましたことが今でも私の胸にしみこんでおります。最後の年にあたりまして新郷の母親学級がいつまでも栄えていただきたいとねがっております。いつもお忙しい校下の皆様の御元気で御活躍の事をよいのりして筆をとめさせて頂きます。

ごあいさつ

父兄会副会長　篠崎広子

「郷の集い」も長発刊になり、新郷父兄会の発展共におよろこび申し上げます。

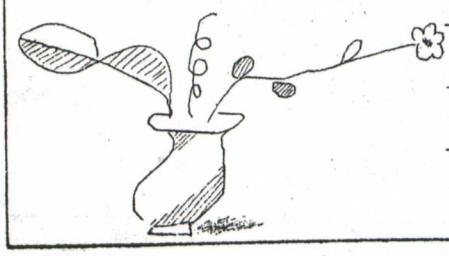
初夏の候となりますと陽気も暖くなり田畑の仕事に毎日くるおいまわされ農作つにも心落ちつかず、思う事も認められませんが、私の思うままを　発刊母に皆様の御意見をよせて頂き、何かと非才なる私に只々感銘さ小る事ばかりで　今後共「郷の集い」の発展を願い祈り申します。先生方には御苦労をおかけ致し熱心なる事を御指導にて母親学級の前途洋々　子に対する母の愛の力がいかに偉大なるかを強く感じさせられ共に感謝する次第でございます。私達は母親学級に出席するのを唯一のたのしみとしており文家の方も良く理解して下さいますし　この学校心に恵えた校下に住みます事を幸いに思ってよろこびにたえません。

毎月一回学校によせて頂き　童心にかえりお話を聞いたり　歌ったり　この若々しい気持は子を持つ親でなくては味えないたのしい気持となんとも申し上げられません。今年はクラブの教科にことばクラブ　学習クラブと昨年よりまたかわったクラブも開放さ小ましてし、何かと学ぶもあったになったように思われます。

私はことばクラブの方へ入れていただきましたが、何気なくつかっていることばの中にも、いろいろと味わいのあることを考えます時、私達婦人として母親としてこのことばの研究も大切なことではないかと思うものでございます。

忙しい中から子供と共に手をつなぎ良き話相手となり一日一日を明るく希望を持ってすごしたいと念願いたしております。一番身近な母親は当然信頼される母親ではないかと思いますが、それには教養をたかめて子供といつまでも、何でもはなしあえる若々しい母親になる事だと思います。忙しい中からも工夫して時間を作り　新聞や本をよんで、また社会に目を通して時代の流れと共に私達も進みいつまでも信頼される母親になろうではございませんか。

母親学級長　小島章子



なごやかに　話し合う

いつの時代においても　老人（親）と青年（子）・嫁と姑はどうして衝突するのであろうか。それは新しいものと古いものとの対立と言うことであろうが、両者とも自分が正しいと信じているからではないだろうか。

老人の方に言わせれば　今の若い者は　自分だの権利だのといってさわぐが、どうも責任と義務がともなわなくて困るとなげく。若い人に言わせれば　老人は年長人間の慣習にとらわれて　保守性につよく若い者の言分をきいてくれないと言う。こういったところに双方のみぞが生ずるのであろう。

親の指導を敬えた子弟は「そくばく」となって　せっかく芽ばえた夢をつみとってしまう。田畑の管理、家庭経済など　今だ親の勝下にあり三十になっても独立できない青年が　ある事を思うとき　言性をきらって都会へあこがれる原因がこの辺にあるのではないだろうか。ここで考えられることは『相互の理解』である。私の知人の家庭で円満にくらしている親子がいるが、夕食後の一時　子は親にスポーツ、映画などの話をし、親は歌舞伎や音楽などの知識を子に与へ、そして田畑の事にまで進んで教えているのである。旧時代は新しいものに対する時、相互の盲目的なみぞも、おのずからうまることになる。若い人も考えて親と相談にしてはいけないと思う。青年達がやがて一家の家長なった時のことを考えて、何時までも若さを失なわないだけの精力と高い教養をたくわえておかねばならぬ。永遠の青春は　新旧時代の別をなくすると共に　明かるい家庭人として新しい農村が生まれるもとになるのではないだろうか。

山本久四郎
愛護会副会長

新役員のプロフィール

本校によせて頂いてから約一年　毎日気持よく仕事をしてもらっている。愛護会の皆様の御後援を深く感謝しているが、新参の私が役員のプロフィールを書かねばならないのは何の因縁か。見る眼が新しいというよりは当らぬ方が多いかも知れぬ。失礼、まずは御覧。

青木会長
去年度の愛護会長を負って快く引受けて「この先生　若い人って感じやすい」と言った。会長を指してである。なるほど言ったり、名言なり。学校の為なら」と連日裏面走。本校として誠に有難きかぎりである。

山本副会長
誠実この权化と言うのはこう言う人を指すのであろう。とつとつと語る人この人の言は聞く者の胸にしみる。黙って座っていても暖かさがせまるのは人徳のいたすところだろう。

篠崎副会長
副会長と言うより「ごしんさん」と呼んだ方がぴったりだ。鋭さと暖かさを兼ねそなえた人。全役員に通ずる事だが誠実さ　こんなに全てを備えた人ものずらい。

小島級長
この人に「先生」と頭をたげられると責任者の私など　思わずタジタジとなる。恩師先生の言によると「全く立派な人」だそうだ。

吉江照夫　学級委員長
着任しで自転車をとばしていたと思ったら　一分のスキもないゆうとしたいでたちで学校に現れる。十数名化多位の学級委員長を引きうけて下さった。部落では　新生活運動の推進者でもある。

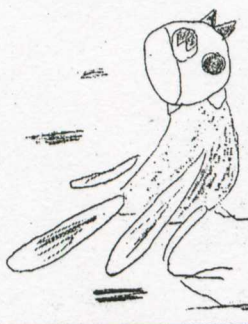
（広部記）

子供と自転車

農村でも機械力に依って農業を経営する世の中となり、文都会でも村でもオートバイを君に左にとはしらせ神風、突風といわれる国になった。子供も学校から帰ると自転車で村道をはしったり家のつかいで町の子も世のこものりまわしている。自転車が五台も六台も並んではしっているのをみると　なんとなくおかしい世になったものかと痛感する。この村でも今年になって十台余りも新車が入ったろうか。五六年の子供までが今や自転車ブームである。あまりにもスピードを出すことをみて、親かアッとびっくりしても一こうもとんじゃくではしっていくのでしかたなくにが笑い。大人も機械によって農業を経営する今日、子供がのりものの機械類に興味をもつのはしかたがないが、怪我をしてもならないし、他人に迷惑をかけてもならない。おさいに気をつけよう。

珠算

来る　六月二十八日（日）南工会議所主催の珠算能力検定試験が若原中学校においておこなわれる。本試験に　よい成績をとれるよう、四年以上全員　連日　猛れんしゅう。



昭和三十四年　愛護会役員名列

会長　青木鼎治　副会長　山本久四郎・篠崎茂子　監事　東安兵衛・小島章子　書記　小林敏雄・北川ふさ子

区分	中学校	中学校	宮前	本堂	原	宮前	浜	向
企画委員	全職員	東安兵衛 山本久四郎 篠崎実 北島春子	斉藤豊	篠崎勇 篠崎茂子 中島甲子丙	小木隆一 稲崎五平	斉藤豊	吉江照夫 青木広 小島章子	◎青木鼎治 吉江照夫 青木広 小島章子
庶務委員	小林	◎東安兵衛	斉藤豊	前篠崎勇 後中島甲子丙	前小木隆一 後稲崎五平		吉江照夫	
補導委員	甘黒　池田	◎堂島賀 林治左丙	斉藤豊	篠崎勇	小木隆一	小島照夫	斉藤豊	◎青木広
文芸委員	広部　増永	白崎好 村田勘治	斉藤豊之	中島甲子丙	稲崎五平	柳屋ツヤ子	高戸つる子 吉江菊枝	△高戸つる子 吉江菊枝
保健委員	脇谷　斉藤	△吉井ミヂカ ◎北島春子 江畑クサイ	柳屋ツヤ子	篠崎照子	△森春子	△篠崎照子	高戸つる子	△小島章子 小島きく 三上小菊
社会厚生委員	牧川　今井	中直七六江 北川キコ	西正節子	篠崎静子	△小林すい	西正節子	小島照夫	◎小島章子 三上小菊
学級委員	各担任	東安兵衛 吉井ミヂカ 江畑クサイ 白崎好 中直七六江 堂島賀 村田勘治 北川キコ 山本久四郎 北島春子 林治左丙	斉藤豊	篠崎茂子 篠崎静子 篠崎照子 中島甲子丙	稲崎五平 小木すい 稲崎五平	斉藤豊 柳屋ツヤ子	高戸つる子 小島照夫	三上小菊 吉江菊枝 小島章子 高戸つる子 小島照夫

◎常任委員長　○母親学級部係　△保健委員世話係

児童会役員名列

会長　青木鉄治　副　山田春子
〃　小島　力
書記　斉藤好巳
北川ふさ子

学級委員名列

三年	三上清治	林梨恵美
三〃	小西徳幸	斉藤なよみ
四〃	東　和夫	新川幸子
五〃	小西忠幸	三上るい子
六〃	斉藤好巳	斉藤春子

部落会役員名列

河向	青木鉄治	竜田光昭
宮前	篠崎和男	斉藤春子
本堂	篠崎　昇	篠崎静子
原	酒井敏治	小木しず子
中浜	山田春子	吉井雄優子

部落会役員名列

向	青木鉄治	三上新一
浜	吉江源華	青木貞三
宮前	四書	三上和夫
本堂	吉江照夫	酒井敏治
原	斉藤好巳	山崎茂子
中浜	三上あき子	吉江幸子
保健	堂島照雄	斉藤春子
給食	東　宣雄	